

平成23年度「岩手・生と死を考える会」活動報告

中村一基¹・千田 浩²

(2012年3月5日受理)

Kazumoto NAKAMURA, Hiroshi CHIDA

The 2012 Report of the Committee on Considering Life and Death

(1) 中村代表あいさつ

東日本大震災から一年がめぐり来ようとしている。日頃「生と死を考える」と言いながら、沿岸部のように大津波による直接的な被災を被りはしなかったが、衝撃の大きさに、3.11以後、津波の映像とともに、時々時間が止まったような感じに襲われながら、日々を過ごしていた。会としての取り組みをと思いながら、いささかでも実現出来たのは、津波から三ヶ月目に、教育学部との仲介をとり、「全国・生と死を考える会」の会長であり、現在、上智大学グリーンケア研究所の所長でもある高木慶子先生に「愛する人を亡くすということ～喪失体験と悲嘆ケア～」という演題で講演をしていただいたことである。翌日、高木先生、長澤教育学部長、遠藤孝夫先生、大橋上智大文学部長などと、宮古田老の国民宿舎に赴き、高木先生が避難されている方のグリーンケアを行う場を設定するお手伝いが出来たことは良かったと思う。個人的には、12月には教育学部出前講座（花巻）で「《命をめぐる言葉》に学ぶ」という題目で、市民のみなさまに話が出来たことは良かったと思う。

被災者、ボランティアを始め、その他、震災をめぐる発言から学んだことを話した。さらに、12月恒例の「教職経験者10年研修」には、「生と死から学ぶいのちの教育～『死生観』教育の再生

～』というテーマで臨んだが、復興の動きがあるが、3.11は終わっていない中で、それぞれの学校現場の状況を、研修の場で語る状態ではなかったのだろう。参加者は、1名と、このテーマで研修を始めて以来、最も少人数であった。来年度は、教育現場では「喪失と悲嘆」をどのように越えようとしているのか、話し合いが出来ればよいと思う。

(2) 「岩手・生と死を考える会」の活動について

本「岩手・生と死を考える会」は、「生と死を考える全国協議会」の活動目標である「死への準備教育・ホスピス運動・死別体験者のわかちあいの場づくり」という3つの目標を意識しながらも、設立時の場の設定として、「(1) 教育現場における『生と死の教育』『死への準備教育』についての学習の場とする。(2) 生涯学習の一環としての上記の教育について、総合的に学ぶ場とする。(3) 『総合演習』（大学での演習・中村担当）の発展の形も取る。」と定めており、最終的には岩手県の教育現場に根ざした「生と死の教育」プログラムの開発作成・実践を目指している。この点が、本会の最大の特徴である。全国に53ある「生と死を考える会」の中でも「死への準備教育」に活動を特化していることが、本会の売りで

¹岩手大学教育学部教授

²岩手県立水沢高等学校教諭

ある。

代表を務める中村教授も、「岩手県教職員10年経験者研修」《現代的な教育の諸問題》での講座「生と死から学ぶいのちの教育」を担当しており、平成23年度で第8回を数える。本研修は、岩手県教育委員会主催の研修の一環であり、このような形で、教員が「生と死の教育」を学ぶ機会がある県も全国的には珍しいと考える。残念ながら、諸般の事情で開催日程が、平成21年度から1日の設定となった。(平成20年度までは2日間の日程であった。)

(3) 活動の状況

平成22年度

第1回(2010/4/24・通算112回)「宮澤賢治『なめとこ山の熊』①」(担当:千田) 懇親会

第2回(2010/5/29・通算113回)「宮澤賢治『なめとこ山の熊』②」(担当:千田)

第3回(2010/7/3・通算114回)例会「高等学校道徳教育全体計画について」(担当:阿部)

研究会「志賀直哉『城の崎にて』」(担当:千田) 懇親会

第4回(2010/9/4・通算115回)「改正臓器移植法」(担当:中村) 懇親会

第5回(2010/10/2・通算116回)「新指導要領における道徳教育の概要」(担当:阿部) 懇親会

第6回(2010/11/13・通算117回)「夏目漱石『夢十夜』」(担当:千田)

第7回(2010/12/18・通算118回)「教職経験者10年研修会〈生と死から学ぶいのちの教育〉」(担当:中村)

第8回(2011/2/19・通算119回)「センター紀要について」(担当:中村)、「『いのちの教育ハンドブック(2010)第5集』について」(担当:千田)、「道徳教育ハンドブックについて」(担当:阿部)

2011/3/11(金) 14時46分18秒 東日本大震災発生

平成23年度

第1回(2011/5/7・通算120回)「グリーフ・ケア

の重要性を話す機会の企画の協力について」(担当:中村) 会場:教育学部棟国語科資料室(中村研究室前)

2011/6/11 高木慶子先生(上智大学グリーフ研究所所長)講演会「愛する人を亡くすということ〜喪失体験と悲嘆ケア〜」会場:北桐ホール 第2回(2011/6/25・通算121回)「高木慶子先生の講演会について」(担当:中村)「愛する人を亡くしたとき」(担当:鈴木)

第3回(2011/7/23・通算122回)「流産、死産、胎内死亡、新生児死亡等大切な人を亡くした母親、家族のグリーフケアの実際と大切にしていること」(担当:山本)、「今後の活動について」(担当:千田) 懇親会

第4回(2011/8/20・通算123回)「『ドリームランドとしての日本岩手県』考」(担当:中村) 納涼懇親会

第5回(2011/10/29・通算124回)「教科書の中の宗教」(担当:千田)

第6回(2011/11/19・通算125回)「映画と講演会の集い」(担当:中村) 懇親会

第7回(2011/12/28・通算126回)「教職員研修10年研・3.11以後のいのちの教育」(担当:中村) 忘年会

第8回(2012/2/4・通算127回)「シンポジウム:震災と岩手の教育この一年」(担当:中村) 懇親会

第9回(2012/3/10・通算128回)「上田・生と死を考える会活動報告」(担当:小高) 懇親会

(4) 今年度の活動について

2003年に設立した本会は、上記のような活動を継続している。会員同士の日程の調整がなかなか難しいということはあるが、なんとか最低限の月1回のペースを崩さず、持ちこたえているといった状況である。

今年度は、東日本大震災という大事件を避けて通ることはできない。未曾有の大災害は、岩手県、特に沿岸部の人々の生活を根底から揺るがした。会としてなにかできることがあればと考え、代

表の中村先生が6月11日に、岩手大学教育学部との仲介をして、「全国生と死を考える会」会長で、現在上智大学グリーンケア研究所所長の高木慶子先生に「グリーンケア」に関しての講演をしていただき、岩手沿岸部の宮古の国民宿舎に非難されている方々のところを訪問したりしました。できることは、少ないのですが、それぞれの会員がそれぞれの立場で、継続的にできることをしていきたいと考えています。

(5) 今後の方向性

「生と死を考える会」の活動ではあるが、今年度は東日本大震災を経験して、これから何ができるか、何をしていかなければならないかを模索する年だったと言ってもいい。そして、その模索の解答は、残念ながら今後会としての活動を継続しながら、考え続けていかなければならないことだと思う。

年度末には、今年度の活動の総括として、「岩手・生と死を考える会」編集の『いのちの教育ハンドブック第6集』発刊予定である。今までの活動を蓄積しつつ、来年度も活動を地道に続けていきたい。